できます。お気軽にご相談ください。

▼図書館が遠くてなかなかいけない…遠隔地サービス　図書館から離れた地域の人たちへのサービスとして、八つの地域生活センターに配本し、貸し出しを行っています。毎月一回少しづつですが、新しい本に取り替えていますし、今年図書館が買った本の目録も備え付けています。借りたい本があったら、センター職員に申し出てください。現在、各センターには約三百冊から六百冊が配本されています。図書館ではこれを一千冊まで増やしたいと考えています。

　また、市内六つの保育園で、それぞれ二週間に一回づつ「でむかえ文庫」を実施しています。父兄が子供たちに本を読んでやることほどよいふれあいの場はないと思います。利用率も年々上がり、前年度は約九割にもなりました。

▼読書グループの育成　読書グループを育てるために図書館の職員が出向いたり、講師を派遣したり、そのほかグループ活動がスムーズに進められるよう、いろいろな援助をしています。

　現在、四つのグループが、それぞれ特色のある活動を続けています。これから新しくグループをつくりたいと考えている人は、ぜひ図書館にご相談ください。

▼本に親しむための催し　市民の皆さんがよりいっそう本に親しんでくださるようにと、白根図書館では毎年、催し物を開いています。今年は十月に文芸セミナー「自分史を書く」を開き、今月は三回にわたる講座「市史を語る」を開きます。

　また、前年度好評だった「杉みき子先生の文章教室」を受けて、来年三月ころ文章の構成などを中心とした「文章塾」を開く予定です。ご期待ください。

前年度は千百六人、三十人に一人が利用

　いろいろ活用できる図書館ですが、では、市民の利用状況はどのようになっているのでしょうか。

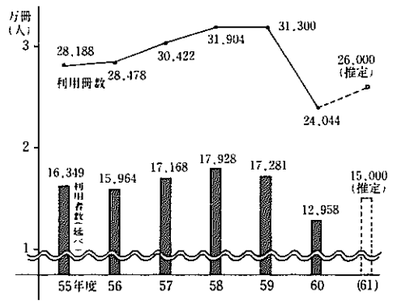
　まず、図①をご覧ください。前年度利用した人は約一万三千人、実質千百六人で、貸し出し冊数は二万四千四十四冊でした。五十八年度まで徐々に増え続けて三万冊台で安定していましたが、ここに来てかなり落ち込みが目立ちます。

　公立図書館の望ましい基準として示されている数字があります。それによると年間貸し出し冊数（貸し出し率）は人口の二倍、利用登録率は人口の一五％となっています。

　本市の場合は、年間貸し出し冊数は人口の〇・七倍、利用登録率は三・二％にしかなっていません。つまり、市民一人当たりにすると〇・七冊しか借りておらず、図書館を利用した人は市民の約三十人に一人ということになります。

　この数字には地域生活センターにある地区配本所や、でむかえ文庫での貸し出し冊数は入っていませんから、実際にはもう少し高い率になります。しかし、いずれにしても基準には遠く及びません。

図①　年度別利用者数と冊数



本をたくさん購入したら市民の利用も増えてきた

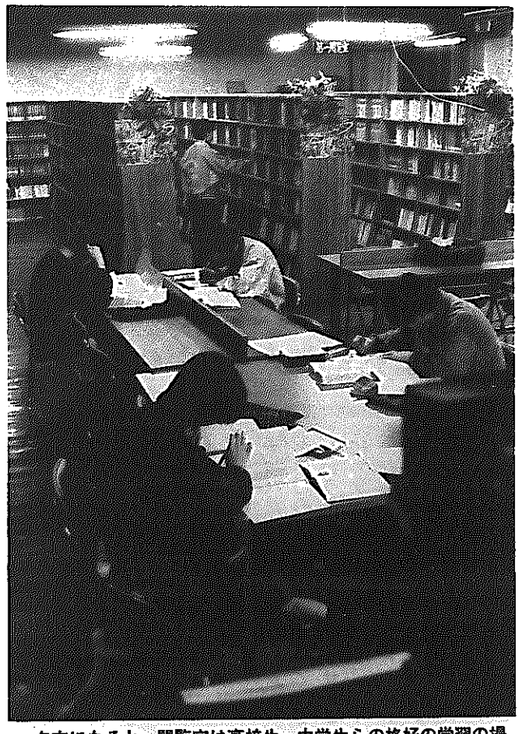
　なぜ利用が減ったのでしょうか。これをほかの類似する市と比較して見てみましょう。県内で人口や財政力など本市に類似している図書館のある市として、五泉、燕、糸魚川の各市が挙げられます。

　次ページの図②をご覧ください。この三市と本市の図書館を、市民一人当たりの図書購入費、貸し出し率、利用登録率で比較してみると、昭和五十五年までは、どの項目をとっても本市が上位を占めていました。中でも、燕市や五泉市と図書購入費の上では大差がなかったのに、貸し出し率、登録率が他を引き離して多かった点は注目に値することです。このことから「白根市民は本好きである」と言えます。

　しかしながら、五十六年度からは市の財政事情が厳しくなり、図書購入費が増額されているにもかかわらず、他市の増額幅があまりにも大きく、また、新館をオープンさせたことなどから貸し出し率、登録率ともかなりの差で遅れを取ってしまいました。

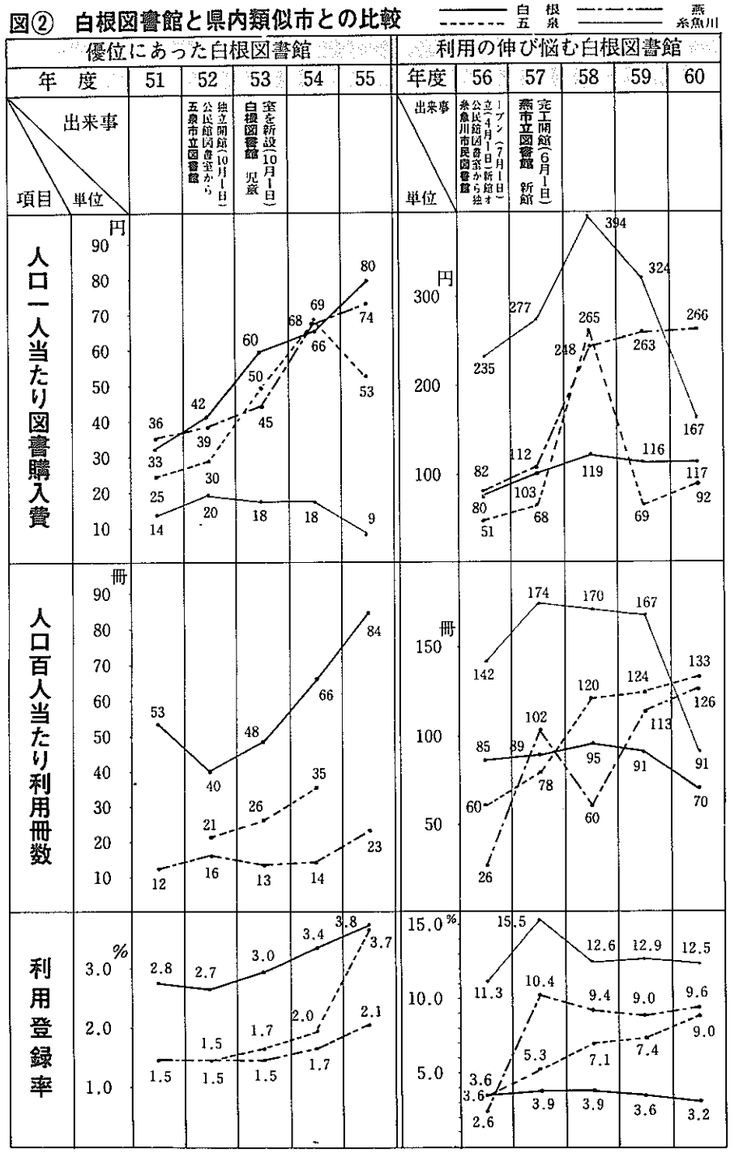
　この図から、図書購入費と、貸し出し率、登録率とが互いに関連しているのがおわかりになるかと思います。

　本年度は財政立て直しのさなかでしたが、図書購入費を四百五十万円に増額しました。その結果、現在、前年度より貸し出し率、登録率とも、かなり増えてきています。



夕方になると、閲覧室は高校生、中学生らの格好の学習の場となります。特に午後8時まで開館する火・金曜日には利用者が増え、この日は勤め帰りの人もたくさん本を借りに訪れます

図②　白根図書館と県内類似市との比較



利用してください あなたの書斎です

　以上述べたように、ほんとうは本好きの白根市民です。並木さんや「でむかえ文庫」を利用する青山さんたちのように、子供のうちから本に慣れ親しませようとする人も増えているようですし、これからの図書館の利用に期待が持てます。

　図書館では、もっともっと蔵書を増やし、市民の皆さんがどこに住んでいてもどんな時でも、読みたい本をすぐ提供したいと考えています。現在、四万一千冊の蔵書がありますが、これをまず五万冊にすることを目標にしています。

　りっぱな資料やサービスがあっても、市民の皆さんに利用されなければ無価値に等しくなります。しかも特定の人が利用するのではなく、子供からお年寄りまでみんなから利用してほしいと思います。

　本を買えば一冊平均千円以上になります。買わずに図書館をあなたの書斎にしてみてはいかがでしょうか。

市立図書館　本棚から

「日本史への一証言」（松本重治）

　激動する歴史の現場に立ち会い、国際舞台の表裏に鋭い眼を注ぎ続けてきた国際ジャーナリストが、その稀有な体験と数多くの秘話を初めて明かす。常に昭和史の渦の中心に位置した、貴重な個人史。

「パンダの親指―上・下」（スティーブン・ジェイ・グールド）

　パンダの手に指が6本あることをご存じですか。辛らつだがユーモアあふれる語り口で、自説の区切り平衡説など最新の生物学的成果をわかりやすく解説。

「ＩＢＭの人事管理」（亀岡太郎）

　超優良企業ＩＢＭの原動力は、社員教育と人事管理にある。《◎千人異動、組織変更を常に実行　◎独創的な下意上達　◎上司も部下もサンづけ　◎稟議書の承認欄は三つが限度》

「そして暮があがった」（小山内美江子）

　三人の女が恋をし、結婚し、それぞれが離婚を経て仕事を持ちながら生きてゆく。〝不倫〟に賭ける女性も交えて、複雑な人間関係が渦巻きながら、起伏に富んだ物語が展開する。

「柳生兵庫助１・２・３」（津本陽）

　戦国時代の剣法は、具足をつけた武者を切る介者剣法だったんです。兵庫助はこれを素肌剣法に変革しました。介者剣法に比べて動きが断然早くなり、無駄な力を抜くタイミング重視の剣術になりました。柳生新陰流の神髄は彼によって体系化されたのです。

今月の受入図書

▷**総記**　長女なんでも事典（斉藤茂太(監)）
▷**自然科学**　新しい難病エイズ（青木雅純）
▷**工学**　ドブロクをつくろう（前田俊彦）　手づくりの健康食品（中野政弘）
▷**産業**　百億人を養えるか―21世紀の食糧問題（ジョセフ・クラッツマン）
▷**文学**　七日間の身代金（岡嶋二人）　エチオピアからの手紙（南木佳士）　舵をとり風上に向く者（矢作俊彦）　貝になった男（上坂冬子）　源氏物語人殺し絵巻（長尾誠夫）　薩摩藩経済官僚（佐藤雅美）　胡桃の家、南青山物語（林真理子）　優しい女房は殺人鬼（北杜夫）　京都花見小路殺人事件（山村美紗）　ブラック・マネー（生島治郎）　遠く、ただ遠く（北方謙三）　はね駒（寺内小春）　白い雨（赤川次郎）　沢庵と崇伝―上・下（寺内大吉）　嵐吹く時も（三浦綾子）　企業家サラリーマン（安土敏）　コンタクト―上・下（カール・セーガン）　仏陀を買う（近藤紘一）　キャッツアイころがった（黒川博行）　かぎりなくやさしい花々（星野富弘）　瓜―上・下（西村望）　並木通りの男（フレデリック・ダール）　大胆な生活（井上光晴）　宇宙のウィンブルドン（川上健一）　ローレライの幽霊船（高柳芳夫）　二羽鴉（岩井護）　ほか多数